

第5回佐久市文化振興推進企画委員会 次第

年月：令和2年5月
場所：書面開催

1 会議事項

(1) 佐久市芸術文化活動事業補助金について（報告及び審査）【資料1】

ア 令和元年度佐久市芸術文化活動事業補助金の報告について

イ 令和2年度佐久市芸術文化活動事業補助金（プランB）の審査について

ウ 新型コロナウイルス感染拡大に係る令和2年度佐久市芸術文化活動事業補助金（プランA）に対する特例措置の適用について

(2) 令和3年度以降の文化振興事業について【資料2、3】

ア 令和3年度に開催予定の文化振興事業について

イ 令和4年度以降に開催予定の文化振興事業について

ウ 令和2年度に開催予定の文化振興事業について

(3) その他

ア 次回の日程について

期日：令和2年10月中旬（予定）

場所：未定

イ コスモホールの復旧について

文化振興事業 検討資料 ①

2020年5月

公演名または内容	児童・青少年のための舞台芸術フェスティバル 〈キッズ・サーキット in 佐久〉 出演団体：総合P兼芸術総監督と実行委員会が決定した団体 (18団体を予定) 概要：市内に点在する中小の公共ホールに劇団等を招へいし、3日間にわたり27公演(予定)を開催	
開催期日または時期 (理由等)	令和3年7月～8月(夏休みに合わせて開催)	
ジャンル プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型(体験参加型も合わせて企画) 演劇等(人形劇・ミュージカル・音楽・サーカス)	
対象年齢 (ターゲット層・理由等)	全年齢(幼児から小学生がいる家族)	
公演料	15,000千円以上	
チケットの料金設定(予定) (参考：他の場所での料金)	パスポート2,000円(各種割引あり) (1公演で1,000～3,000円)	
評価	活動地域	<ul style="list-style-type: none"> ・出演団体は日本各地から招へい(海外団体も予定) ・演劇フェスティバルは、日本各地で開催されている ・本フェスティバルは、市内全域を会場としている
	人気または知名度	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年延べ入場者数 5,310人 ・2019年延べ入場者数 4,950人
	経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年8月、第1回 児童・青少年のための舞台芸術フェスティバル〈キッズ・サーキット in SAKU〉 ・2017年8月、第2回 児童・青少年のための舞台芸術フェスティバル〈キッズ・サーキット in SAKU〉 ・2018年8月、第3回 児童・青少年のための舞台芸術フェスティバル〈キッズ・サーキット in 佐久〉 ・2019年8月 第4回 児童・青少年のための舞台芸術フェスティバル〈キッズ・サーキット in 佐久〉 ・2020年7月～8月に予定していた第5回については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催見合わせ ・2021年度は7月～8月に計画中 ((一財)地域創造の助成により開催する最終年(3年目))
	芸術性	
開催効果	<ul style="list-style-type: none"> ・点在する中小の公共ホールの活用、集客の拡大につながる。 ・児童・青少年のためのフェスティバルとし、子どもたち主体の創作活動につなげる。 ・人材育成や未来の街づくり人づくりとなる。 	
文化振興推進企画委員会の評価		

文化振興事業 検討資料 ②

2020年5月

公演名または内容		<p>出演：日本のバレエ団の各トップダンサー 演目：白鳥の湖, 眠れる森の美女 他（予定） 概要：日本のバレエ団のトップダンサーによるガラコンサート。 ワークショップの開催も可能</p>
開催期日または時期 （理由等）		令和3年度中（開催時期未定）
ジャンル	プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型（及び参加型） バレエコンサート
対象年齢 （理由等）	4歳以上入場可（牧阿佐美バレエ団公演が4歳以上だったため、推測で）	
公演料	約7,000千円	
チケットの料金設定（予定） （参考：他の場所での料金）	3,000円程度	
評価	活動地域	<ul style="list-style-type: none"> ・主に日本国内で活躍。トップダンサーであるため、海外のバレエ団にもゲスト等で出演。 ・新国立バレエ団, 牧阿佐美バレエ団, 東京バレエ団, 元ネバダ州ラスベガス・ネバダバレエシアター 他2団体に交渉中
	人気または知名度	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国内で有数のバレエ団のトップダンサーによる公演であるため、知名度は高いと言える ・ワークショップに関して、地元のバレエ教室はもとより、佐久周辺地域のバレエ教室からの参加が見込まれる。（2017/12/23開催のワークショップでは、ほぼ定員数の参加があった。長野市からの参加申込みがあった。）
	経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年7月に開催予定であったが、令和元年東日本台風によるコスモホールの長期休館に伴い延期 ・現在、出演者と令和3年度の開催について協議中
	芸術性	
開催効果	<ul style="list-style-type: none"> ・地元のバレエ教室等に向けたワークショップを開催できるため、地元の子どもたち及び講師の技術力の向上を図ることができる。 ・バレエ公演の再演を望む声がある。 	
文化振興推進企画委員会の評価		

文化振興事業 検討資料 ③

2020年5月

公演名または内容	出演：Les Frères(レ・フレール) 演目：(未定) 概要：1台のピアノを2人で弾く連弾スタイルでオリジナル曲を演奏 ※令和元年10月に開催予定であったが、令和元年東日本台風によるコスモホールの被災に伴い中止	
開催期日または時期 (理由等)	令和3年度中 ※レ・フレール主催の復興支援コンサートの開催時期に応じて開催の要否を決定	
ジャンル プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型 その他(音楽コンサート)	
対象年齢 (理由等)	全年齢(出演者側は制限していない。リズム感あふれる音楽で全年齢で楽しめる。)	
公演料	約4,000千円(経費込み)	
チケットの料金設定(予定) (参考：他の場所での料金)	3,000円前後 (A席2,000円～6,000円)	
評価	活動地域	主に日本 フランス・ベルギー・韓国でメジャーデビュー ヨーロッパ各国・韓国・オーストラリアの主要都市などでツアーを開催
	人気または知名度	・ツイッターフォロワー数約2,400人 ・2017年10月開催「Piano Infinity」横須賀公演 チケット完売(会場：Younger Than Yesterday・収容人数130名～400名)
	経歴	・2002年9月、出身地横須賀のライブハウスで「レ・フレール」として活動開始。 ・2006年11月発売のメジャーデビュー作『PIANO BREAKER(ピアノブレイカー)』はオリコンウィークリーチャートでピアニストデビュー作歴代最高位のTOP20入り、ゴールドディスクを獲得。 ・2016年9月にメジャーデビュー10周年記念アルバム『レ・フレール THE BEST』を発売。 ・2017年9月発売のアルバム『Piano Infinity』は、サウンドスキャンクラシックチャートで週間売上1位を獲得。 ・オリジナル曲の制作とライブを軸に活動を続ける。
	芸術性	
開催効果	・音楽コンサートだが、新しいジャンルの公演 ・クラシックではないので気軽に楽しむことができる。 ・10～20歳代の集客に期待	

文化振興推進企画委員会の評価

文化振興事業 検討資料 ④

2020年5月

公演名または内容		<p>小学6年生芸術鑑賞会（劇団四季こころの劇場）</p> <p>出演：劇団四季</p> <p>演目：（未定）</p> <p>概要：「劇団四季ファミリーミュージカル」を市内の小学6年生に鑑賞してもらう</p> <p><u>※コスモホールの被災（2019年度）、および新型コロナウイルス感染拡大により鑑賞できなかった児童（2020年度）も鑑賞</u></p> <p>※鑑賞対象が3学年にわたるため、実施の可否について今後学校と協議が必要</p>
開催期日または時期（理由等）		令和3年度中（平日）（全国を巡回している劇団四季と学校のスケジュールを調整のうえ決定）
ジャンル	プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型 演劇（ミュージカル）
対象年齢（ターゲット層・理由等）		小学生（佐久市では小学6年生を対象として平成26年度から開催している）
公演料		公演料無料（経費4,000千円程度）
チケットの料金設定（予定）（参考：他の場所での料金）		無料 （企業からの寄付金により運営されている）
評価	活動地域	<ul style="list-style-type: none"> ・全国、東京・北海道・名古屋・大阪にある専用劇場を中心に、その他の大都市でも開催している。 ・全国ツアーも行っている。
	人気または知名度	<ul style="list-style-type: none"> ・人気・知名度とも非常に高い。 ・ファミリーミュージカル佐久公演過去5年間はチケット完売
	経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・1953年、日下武史、浅利慶太、吉井澄雄ら10名で結成 ・1954年、第1回公演『アルデル又は聖女』などアヌイやジロドゥ作品を中心に上演 ・1955年、『野生の女』（ジャン・アヌイ）が大入りで新聞批評に取り上げられる。 ・1964年、日生名作劇場“こどものためのミュージカル・プレイ”がスタート。第1回『はだかの王様』（寺山修司脚本） ・1975年、『エクウス』上演、文化庁芸術祭大賞受賞 ・1983年、東京に「キャッツ・シアター」を建設『キャッツ』上演 ・1984年、『キャッツ』日本演劇史上初の1年間のロングランを達成し閉幕 ・1993年、日本にミュージカルを定着させた功績で菊池寛賞受賞 ・1998年、大町市に「四季演劇資料センター」を開設 ・2005年、小学校5・6年生向けの四季俳優による出張授業「美しい日本語の話し方教室」を開始 ・2008年、児童招待事業「こころの劇場」スタート、40万人を超える児童・生徒を招待 ・著名な作品多数『キャッツ』『オペラ座の怪人』『ライオンキング』『ユタと不思議な仲間たち』他 ・全国で1年間に約3,000回の公演を開催し、約300万人の観客を動員した実績がある。 ・2015年11月から毎年度、佐久で「こころの劇場」を開催
	芸術性	
開催効果		<ul style="list-style-type: none"> ・観劇後の感想でも評価が高く小学生でも楽しめる劇団四季の公演で、すべての児童にホールでの観劇を体験してもらうことができる。
文化振興推進企画委員会の評価		

文化振興事業 検討資料 ⑤

2020年5月

公演名または内容	うさぎ追いし 山極勝三郎物語 概要：市内中学校で映画を上映し中学生が無料で鑑賞 内容：大正時代の初期に世界で初めて人工癌の発生実験を成功させ、ノーベル医学生理学賞候補にもなった山極勝三郎の生涯を描いた人間ドラマ ※令和2年度は学校の都合により開催を見合わせたため、令和3年度の開催について今後協議予定
開催期日または時期 (理由等)	令和3年度中(中学校の年間行事計画として位置付け、スケジュールを調整し実施)
ジャンル プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型 その他(映画)
対象年齢 (理由等)	中学生(学校の都合により2018年度未実施の東中学校生徒) ※東中学校以外は2018年度に実施済み
上映料	150千円(経費込)
チケットの料金設定(予定) (参考:他の場所での料金)	(学校で上映) (上田市内の中学で実施)
評価	学校での鑑賞目的 山極勝三郎は、ほぼ同時代の医学者・野口英世と比較するとポピュラーとは言えない人物である。しかし、彼の成し遂げた業績は、野口英世のそれに決して引けを取るものではなく、むしろ世界の医学界では評価が高くすらある。 癌がまだ稀な病気であった時代に、世界で初めて人工癌を作った山極勝三郎は、発癌研究、広くは癌研究のパイオニアとされている。 世界的に癌の死亡者は全死亡者の約13%を占め、我が国では1981年から死因のトップであり、近年2人に1人が癌にかかると言われる患者は90万人を超えると言われている。 中学校では、癌そのものの理解や癌患者に対する正しい認識を深めるための癌教育の必要性が言われている。 最後まで諦めない意志とぶれない信念、そして粘り強い実行力をもった山極勝三郎が、どのようにして人工癌を作ることになったのか。そしてそれはどのような人生から生まれたのか。この映画を観ることで生徒に学びとってもらいたい。
開催効果	医学史上偉大な足跡を残した山極勝三郎は、上田市出身の病理学者であるが、これまで教育現場で教えてこなかったことから知名度は低い。学校での事前学習やこの映画を観ることで、いかに信州人の誇りであるか知ることができ、不撓不屈の精神とやると決めたら最後まで成し遂げる大切さを学ぶことができる。
文化振興推進企画委員会の評価	

文化振興事業 検討資料 ⑥

2020年5月

公演名または内容		劇団四季ファミリーミュージカル 出演：劇団四季 演目：（未定） 概要：劇団四季「ファミリーミュージカル」が、1年間で全国巡回公演を行う。
開催期日または時期 （理由等）		令和4年3月（春休みに合わせて設定・全国巡回公演のツアーファイナルが長野県内の公演となる）
ジャンル プロモーション型 詳細ジャンル		鑑賞型 演劇（ミュージカル）
対象年齢 （ターゲット層・理由等）		3歳以上入場可（ファミリーで楽しめる演目を上演するが、中学・高校生以上の女性に好まれると思われる）
公演料		4,800千円程度
チケットの料金設定（予定） （参考：他の場所での料金）		4,000円程度（劇団四季の意向により県内同額） （4,000円程度）
評価	活動地域	<ul style="list-style-type: none"> ・全国、東京・北海道・名古屋・大阪にある専用劇場を中心に、その他の大都市でも開催している。 ・全国ツアーも行っている。
	人気または知名度	<ul style="list-style-type: none"> ・人気・知名度とも非常に高い。 ・佐久公演過去4年間はチケット完売
	経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・1953年、日下武史、浅利慶太、吉井澄雄ら10名で結成 ・1954年、第1回公演『アルデール又は聖女』などアヌイやジロドゥ作品を中心に上演 ・1955年、『野生の女』（ジャン・アヌイ）が大入りで新聞批評に取り上げられる。 ・1964年、日生名作劇場“こどものためのミュージカル・プレイ”がスタート。第1回『はだかの王様』（寺山修司脚本） ・1975年、『エクウス』上演、文化庁芸術祭大賞受賞 ・1983年、東京に「キャッツ・シアター」を建設『キャッツ』上演 ・1984年、『キャッツ』日本演劇史上初の1年間のロングランを達成し閉幕 ・1993年、日本にミュージカルを定着させた功績で菊池寛賞受賞 ・1998年、大町市に「四季演劇資料センター」を開設 ・2005年、小学校5・6年生向けの四季俳優による出張授業「美しい日本語の話し方教室」を開始 ・2008年、児童招待事業「こころの劇場」スタート、40万人を超える児童・生徒を招待 ・著名な作品多数『キャッツ』『オペラ座の怪人』『ライオンキング』『ユタと不思議な仲間たち』他 ・全国で1年間に約3,000回の公演を開催し、約300万人の観客を動員した実績がある。 ・2014年11月から毎年度、佐久公演を開催（2019年度は会場被災により中止）
	芸術性	
開催効果		<ul style="list-style-type: none"> ・有名な劇団であるので多くの住民の興味を引く。初めての観劇でも楽しむことができる。 ・人気は高く、観劇後の感想でも評価が高い。継続開催で、住民要望に応えることができる。

文化振興推進企画委員会の評価

文化振興事業 検討資料 ⑦

2020年5月

公演名または内容		音楽座 出演：平田薫・広田勇二・竹谷春香・野田ゆかり・ 井田安寿・五十嵐進・ほか（ゲスト出演者あり） 演目：未定 概要：一時代、劇団四季と並んで日本を席捲したミュージカル劇団。コスモホール開館当時、3年間連続公演を実施。2021コスモホール開館30周年記念公演として計画予定。
開催期日または時期 （理由等）		令和3年度中
ジャンル	プロモーション型	鑑賞型
	詳細ジャンル	ミュージカル公演
対象年齢 （理由等）		小学生以上
公演料		5,500,000円
チケットの料金設定（予定） （参考：他の場所での料金）		3,000円程度 7,000円程度
評価	活動地域	国内各地で開催
	人気または知名度	<ul style="list-style-type: none"> ・かつての人気はないが現在も根強いファンが多く定期公演やツアー公演を行っている。 ・草月流宗家（草月ホール）とのコラボ公演が話題となっている
	経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・1987年創立から独自の創作スタイルで活動。 ・二度の文化庁芸術祭賞・文部大臣新人賞・度重なる読売演劇大賞等を受賞 <p>主な作品「シャボン玉とんだ宇宙（そら）までとんだ」 「とってもゴースト」／「アイ・ラブ・坊ちゃん」 「マドモアゼル・モーツァルト」・他多数</p>
	芸術性	公演のクオリティは非常に高い
開催効果		<ul style="list-style-type: none"> ・人気、知名度とも高い劇団である ・新たなミュージカル層を取り込める ・かつての観客への凱旋公演と位置づける
文化振興推進企画委員会の評価		

文化振興事業 検討資料 ⑧

2020年5月

公演名または内容	ニューイヤー・コンサートもしくは同等プログラム 指揮：ジョナサン・ノット（音楽監督） 演奏：東京交響楽団 演目：未定 概要：ニューイヤー・プログラムが発表となったら詳細情報を入手	
開催期日または時期 （理由等）	令和3年度中	
ジャンル プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型 オーケストラ演奏	
対象年齢 （理由等）		
公演料	未定（プロモーション内容によって変動）	
チケットの料金設定（予定） （参考：他の場所での料金）	3,000円程度 8,000円程度	
評価	活動地域	東京を含む各地
	人気または知名度	<ul style="list-style-type: none"> ・都民にとっては親しみのある交響楽団であり知名度も高い ・音楽監督ジョナサンの元、多種多様なプログラムが魅力
	経歴	1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称。現代音楽の初演などにより数々の賞を受賞。 新国のレギュラーオーケストラとして、毎年オペラ・バレエの公演を担当している。
	芸術性	
開催効果	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムに多様性が認められる 	
文化振興推進企画委員会の評価		

文化振興事業 検討資料 ⑨

公演名または内容	松竹大歌舞伎 出演：未定 演目：未定 概要：全国公立文化施設協議会 統一企画	
開催期日または時期 (理由等)	令和4年度以降	
ジャンル プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型 伝統芸能(歌舞伎)	
対象年齢 (理由等)	小学生以上(落ち着いて鑑賞できる年齢)	
公演料	不明(7,300千円 税込)	
チケットの料金設定(予定) (参考:他の場所での料金)	一般 4,000円程度 高校生以下 2,000円程度	
評価	活動地域	国内(全国)のほか海外公演もあり
	人気または知名度	日本固有の伝統芸能の一つであり人気及び知名度は高い
	経歴	松竹(株) 創業は1895年。現在は歌舞伎の興行について、ほぼ独占的に手掛けている。
	芸術性	浮世絵がそのまま動き出したような粋な世界観を感じることができる
開催効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統芸能の公演が少ないので、観劇の機会とする ・ お客様から伝統芸能の公演の要望の声がある 	
文化振興推進企画委員会の評価		

文化振興事業 検討資料 ⑩

2020年5月

公演名または内容	DRUM TAO 万華響-MANGEKYO-	
開催期日または時期 (理由等)	令和4年度以降	
ジャンル プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型 和太鼓エンターテインメント	
対象年齢 (理由等)		
公演料		
チケットの料金設定(予定) (参考:他の場所での料金)	3,000円程度	
評価	活動地域	
	人気または知名度	
	経歴	
	芸術性	
開催効果		
文化振興推進企画委員会の評価		

文化振興事業 検討資料 ⑪

2020年5月

公演名または内容	宝塚歌劇団全国ツアー トップスター（稀に2番手）を中心に行う巡業で、全国各地の会場で公演される。 本公演同様に「2本立て公演」もしくは「一本物」で上演され、演目は直近の本公演で上演した演目もしくは旧作の再演となる。	
開催期日または時期 （理由等）	令和4年度以降	
ジャンル プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型 歌劇	
対象年齢 （理由等）	子どもから大人まで	
公演料	不明	
チケットの料金設定（予定） （参考：他の場所での料金）	3,000円程度 6,000～8,000円	
評価	活動地域	国内外
	人気または知名度	2018年度JCSI（日本版顧客満足度指数）調査結果で、宝塚歌劇団は3年連続の年間総合1位（劇団四季は2位）
	経歴	1974年に上演された『ベルサイユのばら』は、140万人の観客動員となる大ヒット。空前の宝塚ブームを巻き起こした。 昨年、宙組設立20周年を迎え、記念公演としてミュージカル『WEST SIDE STORY』の上演や、宙組誕生時のレビュー『シトラスの風』の再演などが行われた。さらにこの年、観客動員が過去最高の277万人を記録するとともに、宝塚大劇場、東京宝塚劇場の稼働率も過去最高となった。
	芸術性	
開催効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人気、知名度とも高い歌劇団であり、大勢の来場が期待できる ・ 若い世代の来場も期待ができる 	

文化振興推進企画委員会の評価

文化振興事業 検討資料 ⑫

2020年5月

公演名または内容		出演：春風亭一之輔 演目：未定 概要：一之輔の独演会（または二人会）
開催期日または時期 （理由等）		令和4年度以降
ジャンル	プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型 芸能（落語）
対象年齢 （理由等）		小学生以上
公演料		約2,500千円（経費込み）
チケットの料金設定（予定） （参考：他の場所での料金）		2,500円（全席指定） 3,500円～4,000円
評価	活動地域	日本（東京） 全国巡業、地方公演もあり
	人気または知名度	若手では人気・実力とも定評がある。 ツイッターフォロワー数15,600人
	経歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2001年3月、日本大学芸術学部卒業 ・ 同年5月、春風亭一朝に入門 ・ 同年7月、前座「朝左久」 ・ 2004年11月、二ツ目「一之輔」 ・ 2012年3月、真打昇進 ・ 2015年11月、第32回浅草芸能大賞新人賞受賞（他受賞多数） <p>持ちネタ：不動坊、茶の湯、鈴ヶ森、初天神など 出版物：書籍「一之輔、口座に粗忽の釘を打つ」 CD「春風亭一之輔 初天神 青菜」他</p>
	芸術性	
開催効果		<ul style="list-style-type: none"> ・ 人気の高い落語の公演のため、大勢の来場が期待できる ・ 若手の公演を開催し、比較的若い世代の来場を促す
文化振興推進企画委員会の評価		

文化振興事業 検討資料 ⑬

2020年5月

	ザ・ニューズペーパー公演 ザ・ニューズペーパーは、時事ネタを得意とする日本のコントグループ。 株式会社TNPカンパニー所属。「社会風刺コント集団」として舞台を中心に活動している。現在、メンバーは9人で構成されており、フルメンバーのほか少人数でも活動を行っている。 本編は、ニュースをネタにした5～15分程度のコントと歌の組み合わせで行われる。	
開催期日または時期 (理由等)	令和4年度以降	
ジャンル プロモーション型 詳細ジャンル	鑑賞型 コント	
対象年齢 (理由等)	大人向け	
公演料	不明	
チケットの料金設定 (予定) (参考: 他の場所での料金)	3,000円程度 5,000円程度	
評価	活動地域	国内
	人気または知名度	社会風刺コント集団のためかテレビ出演が極めて少ないため、知名度は低いがその分面白く、熱狂的ファンも多い。
	経歴	結成は1988年。当時『お笑いスター誕生!!』に出演していた「笑パーティー」「キャラバン」と、「ジョージボーイズ」という3つのグループが合併する形で誕生した。 現在、年に2回東京本公演(銀座博品館劇場)を行うほか、全国公演も行っている。 2013年、落語芸術協会準会員となる。
	芸術性	表現力豊かな役者が演じる様々な人物のコントに、笑いながらニュースの裏に隠された社会の本質が見えてくる。特に歴代総理大臣の形態模写を中心とした政治コントは、他では鑑賞できない分野である。
開催効果	・ これまでにコスモホールで開催されていない分野の公演となる	

文化振興推進企画委員会の評価

